ニィハオ 你好

8

嘉興市（かこう）

企業紹介

民豊製紙（みんぽう）工場

富士市と同様、嘉興市も製紙工業の発達している都市です。嘉興市の代表的な製紙工場が民豊製紙工場です。この工場は、1920年創業というから中国でもかなり古い歴史と伝統のある企業です。現在、働く労働者数3,780人、抄紙機11台、これを運転するのに必要な用水エネルギー施設や環境保全施設など、7工場の生産単位と2つの分工場に研究所と工人大学を持っています。

主な製品は、コンデンサー絶縁紙、トレーシングペーパー、巻たばこ用紙、各種印刷用紙、模造紙、静電複写用紙など10余種あり、いずれも高い品質で国家から賞を得ています。国内の安定した市場が確保されていますが、最近は輸出も盛んです。また、1984年の紙生産額は、7,510万元（約30億円）で、技術革新や近代化への計画も積極的に実施しています。

ふるさとの昔話

川尻一丁目の

荒れ間のキツネ

須津地区の川尻一丁目に、農業用水のための池があります。今は地下水をポンプで吸い上げていますが、昔は清水がわいていました。今回は、この池の付近に伝わる伝説「荒れ間のキツネ」を紹介します。

一匹の古ギツネ

川尻一丁目の中で、岳南鉄道のすぐ南側の地域を「荒れ間」と呼んでいます。ここには古くから大きな池があって、アシやマコモが生い茂り、その池の周りには林がある寂しいところでした。

昔、ここに人を化かすのが上手な「おせん」「おこん」という古ギツネが住んでいました。そして何人も化かされたので、人々は怖がっていました。

ところが、神谷に住む元気のいい若者が、

「キツネが人を化かすなんてことがあるものか。おれは絶対に化かされないぞ」

と威張って、勢いよく荒れ間の林へ出かけていきました。

キツネの嫁入り

ちょうど林のそばまで行くと、どこからともなく、大変にぎやかな声が、がやがやと聞こえてきました。

「さては、出たな」

と思って声のする方へそっと近づき、道端にしゃがんで待ち構えていました。するとにぎやかな声はだんだん近くなって、目の前までやってきました。よく見るとそれは花嫁の行列でした。若者は、

（どこの家の祝言かな、それにしても美しい花嫁だなあ）

と、うっとりと見とれていました。

頭をそられた若者

花嫁の行列はにぎやかな笑い声を残しながら、だんだん遠ざかって、ついに見えなくなりました。

「あっ、今のはキツネの祝言だったかもしれない」

と気がついた若者が、ふと頭へ手をやってみると、今までふさふさしていた頭の毛が一本もなくなって、つるつる頭にそられていました。

（鈴木富男著「富士市須津の史話と伝説」より）

地名の由来

大渕（おおぶち）

大渕村は武田勝頼の臣、小山田昌辰（こやまだまさたつ）の子孫が、武田氏滅亡後移住して開拓したのだとも、あるいは信玄の命で駿河に橋頭堡をつくるための開拓農民だったとも言われています。しかし、確かなことはわかっていません。

どちらにしても秋山氏と同じように甲斐武田の家臣であったのは間違いないようです。

大渕という地名は、大きな渕があったからだとも、頼朝の馬のむちを取ったからだとも言われます。

こちら編集室

七月二十三日、大規模な停電がありました。停電の後、広報広聴課にある六台の電話機は鳴りっ放し。「広報無線が聞こえない」「いつまで停電するのか」という声にまじって「なぜ、事前に放送しなかったのか」という電話も。「ハテ？」いずれにしても広報無線の重要さを再認識した一日でした。

発行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地　☎51－0123　人口　219,122人　男　108,783人　女　110,339人
編集・総務部広報広聴課　世帯数　62,861世帯　（7月1日現在）